

## 産地を越えた果樹せん定技術交流で若手生産者を育成

農業総合研究センター中央普及支援センター



せん定検討会の様子



ベテランの話に聞き入る若手生産者

石川県は、梅雨の時期に比較的晴れ間が多いことから、美味しい果実が生産される地域です。しかし、担い手の高齢化が進展しており、樹齢に応じたせん定技術などを習得した若手生産者の育成が課題となっています。

このため、当センターでは、県果樹園芸協会なし部会及びりんご部会と連携し、若手生産者への技術の継承と高位平準化を図るため、県農業総合研究センター果樹ほ場において、せん定検討会を開催しました。

せん定検討会には、20代から70代の生産者延べ160名が参加しました。それぞれの産地別に分けて設置した果樹を、生産者が実際にせん定し、代表者がそのせん定の仕立て方を説明した後、活発な意見交換が行われました。

このことにより、世代と産地を越えた技術交流が行われ、これまで産地内に留まっていた技術や年月を経ないと得られない貴重な経験を共有することができました。若手生産者には「普段知りたかった先輩の技を実際に見ることができた」と好評でした。また、検討会終了後には、農業総合研究センターの研究員から研究成果の発表があり、新しい品種や病害虫対策等の栽培方法についても理解を深めました。

今後は、摘果や新梢管理など夏場の管理作業についても検討会を開催するなど、ベテランの技術と経験を継承する機会を増やし、新たな担い手を育成することで、石川の美味しい果実の安定生産を支援していきたいと思えます。

問い合わせ先：農業総合研究センター中央普及支援センター  
(076-257-9150)